

ヨットマンとしてはヨットで外国に行くということは夢であります。ヨットマンの端くれとしては何とか行きたいと考えておりました。近いのはグアム島、韓国、台湾です。

仕事の関係で熊本に滞在することが多くほかの人が熊本でヨットに乗っているのを横目で見ておりました。ある日ふと素晴らしいアイデアが頭をかすめました。そうです、第一ステップとしてヨットで熊本まで行き、第二ステップとして韓国に行くというアイデアです。

それからはいろいろと航程や仕事の関係を検討いたしました。熊本まで、20日～30日かかることがわかりました。熊本からは韓国まで往復10日～20日です。こうすれば、私の現在の環境を変化させずに行けそうなことがわかりました。このアイデアがでたのが今から5年前の2003年です。

一年間半にわたり航海設備を購入したり船の整備をしておりました。そして2005年3月に銚子マリーナを出向し、熊本に向かいました。鴨川、大島の波浮まではルンルンで航海しておりました。大島に行く途中ではイルカのお見送りを受けました。

波浮から伊豆半島に向かうときは波、風、潮がすべて向かいであり、夕方までにつくことが無理でしたので、途中で引き返しました。荒れているときは出ませんので、途中で引き返したのはこのときだけです。翌日は風も収まり伊豆半島の先端近くの妻良漁港に着きました。それ以後は順調でしたが、銚子のヨット仲間は無理して海が荒いときに出てるのではないかと心配するほどでした。日本一周のために2日遅れで銚子をでたヨットは大島まで行くのに一週間かかったほどです。

我がヨットは福田、安乗、三木浦、那智勝浦、田辺、徳島、小豆島、下津井、伯方と順調に進みました。しかしながら、伯方で朝を向かえ出港するときにエンジンからエマージェンシーブザーが鳴りました。調べますと、オイル漏れということがわかりました。それほど多くは漏れていませんので、オイルが減ったら継ぎ足しながら行くことになりました（後で調べましたら、オイルフィルターの締めすぎによりそこから漏れていました。私がやったのではないですが、整備のときにやらせた私が馬鹿でした。）。そして、オイルを継ぎ足しながら御手洗、祝島、門司、平戸、鹿子前、長崎と移動しました。

遅くなりましたが、私のクルージングは日の出前後に出港し、お昼過ぎには目的のところに着くというやり方です。そのようなわけで、いろいろな所の日の出を海の上から迎えました。

このように順調にいったので、長崎には予定の日より意外と早く着きました。よって長崎ではクルー（ヨットで働く仲間、別名奴隷）たちとのんびり一日遊ぶことが決まり、フェリーの棧橋の隣のデジマワープ（マリーナ）につけました。そこはベークサイドマリーナより小さいのですが、レストランやショップがあり夜遅くまでアベックがたむろしている所です。そのアベックを横目で見ながら船のうえでの飲み会です。そして、私が長崎に行くときと良く立ち寄る銅座のクラブにいき、久しぶりに羽目はずして飲みました。熊本行きのクルージング中に船外で飲んだのはこれが初めてです。

私はアルコールが少々残っているような感じでしたが、元気なクルーがいたので翌日早くに出港しました。途中までもイルカのお迎えが待っておりました。自然のイルカは水族館やイルカショーで見せてくれないものも見せてくれます。ヨットはスピードが遅いのでイルカにとっては最高の遊び友達といった感じです。

そして熊本県本渡大矢崎に着きました。もちろん大矢崎の天草ヨットクラブの皆さんからのウェルカムパーティーがあり楽しい夜をすごしました。銚子から熊本までの間で着いてからお酒を飲まなかった日はありませんでした。すなわち、飲みっぱなしでした。これで、私のクルージングの第一ステップは終わりました。全部で24日かかりました。

その後、第二ステップに入るため、再度ヨットの整備をしました。今度はオールナイトでのクルージングになりますのでレーダーも設置し、日本と韓国の国旗、黄色い旗（我が艇は検疫を要求する意味の旗です。相手国や日本に入ってきたときに揚げる旗です）やそれらの旗を揚げる設備などを準備し、出発を待っていました。

2006年5月末に出発しました。出発まもなく、またしてもエンジンからエマージェンシーブザーが鳴りました。出発してすぐでしたので今出た港に戻りました。原因は冷却水取入れ口に小魚が入って、冷却水が入らなくなったためです。出発が遅れてしまったのでその日はあきらめ、翌日出ることになりました。しかしながら、その夜に低気圧が台風にかわり、その台風が対馬に向かっているとの天気予報がありました。5～6月に台風が日本に来るのは珍しいので、もう一日待って台風が対馬にさらに向かっているならば中止しようとの結論になりました。最近の天気予報はよくあたるものでして、翌日も間違いなく台風は対馬に向かっていました。玄界灘はただでさえも荒れることが多いので、無理をせず今回の韓国行きは断念しました。熊本日日新聞の記者も雨の中取材に来てくれましたが、中止と聞いて肩を落として帰って行きました。熊本みたいなところ（こんな事いうと、熊本出身者は怒るかもしれませんが）ではヨットで韓国へ行くのが記事になります。

翌年の2007年の同じ時期に行くように予定を立てました。しかしながら、私の体の調子が良くなり（2月に5日ほど入院したのですが、体力的に衰えてしまいました。）、延期しました。しかしながら、今度行くときはアマチュアの無線機を持っていき、韓国内でのサービスをしようかと考え、韓国アマチュア無線連盟（KARL）に連絡したりして、努力しました。私が日本での申請を50MHz帯のハンディー機で申請したら韓国でもOKが出たのですが、私のヨットに積んであるトランシーバで申請したのが誤りでした。そのため、その機械はハンディーではないのもって来なければ許可は出せないといわれてしまいました。ヨット行かなければ許可は出ないし、行ったときに許可をとっても次はないので最終的にあきらめました。SSBのハンディーのトランシーバはあるのでしょうか？ また、九州でも韓国でも同じですが、50MHz帯のSSBで出る人は少ないようです。というよりか、いません。本当は、海上でオンエアし、国境を越えたときにコールサインを変更して再度コンタクトするような珍しい交信をしたかったのですが残念です。私が日本で申請した機械はヨットに積んであるものだけで、追加で申請してさらに韓国に申請する時間がなかったからです。

翌2008年は最後の挑戦とっておりました。同じく5月末に出発のための準備をしました。船底もきれいに塗り、準備万端です。5月29日に出発しました。スタートから北東の風がありましたが、航海には問題ありませんでしたので、順調に長崎、平戸とクルージングを楽しみました。しかしながら、平戸から対馬に行くときは北東の風が強くなり、風波も高くなって途中で壱岐に避難しようかとも考えました。対馬にそのまま行く、壱岐に避難する、博多方面に戻る事が考えられましたが、ちょうどその三角形の真ん中にいたので、そのまま対馬の厳原まで行くことになりました。約二時間ほどじっと忍耐のクルージングです。着けば港の中はゆったりで、奥の岸壁につけました。岸壁につけた直後、韓国籍の大きなヨットが隣に来ました。これから九州方面をクルージングすること、情報交換をしました。翌日は日曜日なので公官庁は休みです。そのため土曜の午後から日曜の午後までゆっくりとレンタカーで島内めぐりです。

対馬はほとんど韓国といってよいほどの島で、レストランもハングル文字でも書いてあります。蕎麦屋さんも韓国風のそばで私の口には合いませんでした。でも、島の人たちはすごく優しく、ヨットでこれから行くとのことを言いましたらいろいろと世話をしてくれました。

6月2日月曜日に各管理局に申請し、いよいよ出国です。しかしながら、我が艇には船体番号のシールが外されていました。なぜならば、船底を塗りなおしたときにシールが外

されていたのです。そのことをクルーが気づきました。なぜ気づいたかという、港に入ったときにロープを取ってくれた人たちはその船がどこから来たかを船のシールを見て確認するのですが、それが見当たらないためにわれわれに聞いくるからです。それが無いともしかすると出国できないかもしれません。偶然にも同じ番号のシールが以前の船検のときに貰ったのがあり、とっておいたのでそれだけは着けました。ほかのシールはついていません。番号があれば問題ないようで、なんとか疫関、税関、入出国管理局、保安部と申請し出国しました。

風は北東、われわれが向かう真向かいです。出て一時間ほどで向かい風が強くなり、そのままいくことをあきらめ、風を防げる入り江で待機となりました。出国していますので上陸もできず、湾のなかにも入れずで一日船の上です。しかしながら一日では風はおさまらず、結果的に二日待機しました。

避難していたところから翌未明に出発し、韓国に渡りました。韓国に渡る際も風がまだ落ちていなく、二度ほど前からの波と横からの波が同時に来て、ヨットが横になったまま波にたたかれました。過去に台風にあったときもこのようなたたかれ方はありません。たたかれるときに我がヨットよガンバレと祈りました。祈った甲斐があったかどうかは定かではありませんが、何とかそれを乗り越えて韓国領内にはいり、韓国の旗と黄色い旗をマストに上げ、船籍国の旗すなわち日本の旗を後ろに揚げました。その後、韓国釜山港の隣のヨット競技場マリナに入港です。周りには写真のように大きなマンションがたくさんあり、現代的なところですよ。飛行機や水中翼船では何度の行っているのですが、ヨットでやっと来た韓国ですので感無量です。入国、検疫、税関の検査を済ませ念願の上陸です。保安部の人たちは来ませんでした。

今回はあくまで韓国へのクルージングが目的でしたので、翌未明には出国です。入国の際にそれを伝えましたら、OKとのことで、出国の判子も押ししてもらいました。その際、出国の日付のゴム印がなかったもので、日付は手書きでした。おそらく、手書きの出国日の入ったパスポートを持っているのは我々だけではないでしょうか。そして、翌日が出国である日付が押されたパスポートを持って釜山市内を散歩です。このようなことをした人は居ないのではないのでしょうか。

ヨットで来ている日本人（彼はヨットで来て仕事のためにヨットを置いて飛行機で日本に帰り、また戻ってきた人です）に聞きましたら、マリナのそばには焼肉屋はありませんとのこと。釜山には日本人観光客が多く、日本人向けの値段と韓国人向けの値段が違う店もありますので、わざわざタクシーで行って高い焼肉を食べるのもしかして焼肉はあきらめました。韓国でおいしいのは焼肉のほかにサンドイッチがあります。と、私は思います。マリナのスナックでサンドイッチが作れるとのことでしたのでサンドイッチで韓国の味を楽しみました。私は仕事の関係でよく韓国に行っておりましたが、屋台が出ているところでは必ずサンドイッチを売っています。サンドイッチといっても、ホットサンドで目玉焼きや野菜が入ったもので、あまり日本では見かけないものです。私はそれが大好きです。ソウル市内の屋台では1000ウォン～2000ウォンで売っています。サンドイッチを肴にビールで乾杯して韓国クルージングの成功のお祝いです。翌日も早く出港するので早々とヨットに引き上げ夜八時には就寝です。

翌朝は天気も良く、どうやら高気圧に入ったようです。釜山から対馬への帰りも何もなくゆったりとしたクルージングでした。韓国から対馬までは良かったのですが、少々入国で引っかかりました。テロ防止法という法律がかなり前に制定されており、それに引っかかってしまいました。韓国での入出国は問題なく行ったのですが、日本に入ってその違反になってしまいました。初犯であると言うことで、始末書で勘弁してもらいました。

対馬から平戸、長崎は本当にのんびりとしたクルージングでした。行きの荒れかたがうそのようです。クルージングしている最中にお湯を沸かしインスタントラーメンをすす

ことができたということでどんなに凧いでいたかがお分かりとお思います。長崎では銚子から来る際に寄ったデジマワープにいき、その雰囲気を楽しみました。また、久しぶりで顔なじみのクラブにも立ち寄りしばし歓談です。最近気がついたのですが、私とそのクラブのママを知ったのは今から28年前でして、そのころは30歳そこそこで若くて可愛いママでしたが、今は完全におばさんになっています。でも、長い付き合いで行けば歓迎してくれます。断っておきますが、そのママとはお店の以外での付き合いはありません。念のため。

翌日も長崎にいても良かったのですが私をはじめクルーも早く熊本に帰りたく翌日出発しました。日数的には余裕があったのですが、荒れたときのことを考え発つ事になりました。もしかして翌日が荒れたら喜んで一日待機したかもしれません。天草の本渡に着き、夕方には天草ヨットクラブ（現在私はこのクラブに所属しています）主催の韓国クルージング達成記念パーティに呼ばれ、ここでも楽しい夜をすごしました。写真は副会長の奥様からお祝いの花束を貰ったときのものです。

韓国クルージングでは14日費やしました。人があまりできない経験をし、また誰一人として傷つくことなく往復できたのは幸せでした。

乱文ですが、最後まで読んでくれたことを感謝いたします。



韓国のヨット競技マリーナに着いてホットしているところです。後ろの建物はマンションです。朝早くにはそこの人たちがマリーナを散歩しています。ちなみに、着ているウインドブレーカは韓国製です。



天草ヨットクラブ（現在私はこのクラブに所属しています）主催の韓国クルージング達成記念パーティでの一コマ。私（向かって右から二番目）が一番疲れた顔をしています。